

天の怒り ポツプラのつむぎ



台風で倒れたポプラがつむぎ続ける物語ー
隆杉純子さんとポツプラ・ヘアレンツ・クラブ

愛着があるから、名前が生まれる

この話の主役である、「ポツプラ」と名付けられたポプラの木は、広島城に接する中央公園自由広場（芝生広場）の西側の基町環境護岸と呼ばれる川辺に立っている。

名付けのきっかけをつくった隆杉純子さんは10年の東京暮らしを経て、再び故郷広島に戻った。

知人から「今度、基町環境護岸で野外コンサートがあるから見に行かない？」と誘いを受けて、「基町環境護岸」という言葉に「護岸？何、それ？」と引かれた。

彼女は、フランスで全ての通りに歴史や文化を刻み込んだ名前がついていることにとっても感銘を受け

ていた。例えば戦勝記念日を記す「1945年5月8日通り」といったように。広島8・6（ハチロク）という言葉が広島市民しか知られていないことも気になっていて、どこかにしっかりと刻むべきだという思いがあったそうだ。

そして、市内の主要な3カ所の川通りに愛称を付ける「川通りの命名プロジェクト」を思い立った。平成15年11月から公募を開始し、2カ月で3カ所の川通りに1000通のアイデアが寄せられた。そして、基町環境護岸の愛称は「基町POP」b（ポツプラ）通り」と名付けられた。

彼女はこのプロジェクトを立ち上げるにあたり「川端、川辺、散

歩道というのではあまりにも味気ない。親しい人とは特別な名前前で呼び合いたい」と言っている。その川岸のシンボルとなっていたポプラの木に「ポツプラ」とはずむような語感が与えられて、一般名詞のポプラは「ポツプラ」と親しみを込めて呼ばれるようになった。

ポツプラをもっと知りたい・知ってほしい

さて、自分たちにとっては特別な存在となったポツプラだが、その生い立ちはよくわかっていない。そこで、この木のことをもっと知りたいと来歴を調べ始めた。被爆樹木ではないようだ。調査の結果、いくつかのことがわかった。

戦災復興が軌道に乗り、街の緑化が進む中で、ポプラの苗木は早く成長する木として市内に数カ所あった苗は（苗を育てる田んぼ）で生産され、配布されたこと。そして地域の人々の手によって植えられたこと……など。

これらを平成16年3月に「ポツプラストーリー」としてパンフレットにまとめた。

同時に、この愛称を多くの人に知ってもらいたいと、基町POPb通りでピクニックを始めた。夏には、ポツプラの身長測定を行い、26mの高さがあることがわかった。1本のポプラの木を囲んで、仲間が増え、人の輪が徐々に広がっていった。

ポツプラが倒れた！

そうした活動を始めた矢先だった。平成16年9月7日、台風18号の強風によりポツプラが根こそぎ倒れた。対岸のビルから心配して眺めていた仲間が隆杉さんにすぐ連絡した。暴風が収まった夕方から有志が集まり、むき出しになった根を乾燥させないように、ホームセンターでありつただけのコモを買い、根に巻いた。応急手当のためだ。翌日の夕方、有志の会議で、ポツプラの行く末について意見は分かれた。約60年が寿命とされるポプラはそろそろ天命だ。根の浅いポプラを水際に植えるのは相応しくない、次世代に託すべきという声もあった。しかし、最後の皆の

気持ちをついにしたのは、この言葉だった。

「いま、見送るのは忍びない。つながっている根に可能性を託し、もう一度、同じ水辺に植えたい」。

多くの市民がポップラの再生を望んだ。この熱意に応じて管理者(国土交通省太田川河川事務所)が植え直す方針を固めた。

応急手当の第2弾は、葉からの蒸散を防ぐことである。もりメイト倶楽部Hioshima、みずえ緑地(株)などの協力を得て残った根に応じたポリウムに幹や枝を切断した。

直した責任感のようなものもあったという。

そこで、今度はかつてこの水辺のデザインに携わった人たちを招き、当時の想いや将来の水辺のあり方を多くの人と考えるためのシンポジウムや展示などの企画展を開催した。

隆杉さんはこうした企画を通して「ポップラだけこだわってはいけない、もう少し緑地全体に関わりたい」と思い始めた。

そして倒木

から3日後に官民協働の

「ポップラ植え直し」が実行され、樹高は半分の11mに切りつめられ、枝葉を落としたポップラが元の場所に植え直された。

この時に真剣に議論し、共に作業した仲間が、翌々年に結成されるポップラ・ペアレンツ・クラブのメンバーとなっていく。

太田川・水辺のデザイン展

ポップラを植え直した後、この水辺の将来像をどう描くか、そのことに関心が向けられた。植え

作品「夕風の街 桜の国」との不思議な縁で活動が新たな展開を

平成17年、活動が思わぬ展開を見せる。原爆をテーマとして、数々の賞を受賞した漫画『夕風の街 桜の国』との出会いである。この漫画の舞台の二つが戦後および現代の基町POPPAを通りだった。

仲間は皆、この作品にひかれ、作者がこの史代さんが広島を訪れた際に、現地を案内する機会を得て、基町POPPAを通りて漫画を元にした寸劇を演じた。そして、これが後述する野外映画や野外コンサートなどを行う「ポップラ劇場」の始まりとなった。

また、東京に暮らすこのさんが橋渡しをし、中野区平和の森公園にベビーポップラ(ポップラのひこばえ)の植樹が実現した。新展開を予測させる出来事となった。

ポップラ・ペアレンツ・クラブ誕生

より深くこの緑地に関わりたいたいと考えていた隆杉さんと、先進的な公共緑地の管理に踏み出そうとしていた管理者の太田川河川事務所の思いが共振して、複数の市民団体と企業の連合体で平成18年7月に「ポップラ・ペアレンツ・クラブ」(略称PPC)が発足し、河川事務所と管理協定を締結して緑地のお世話をすることとなった。

協定を作成する際には、何度も話し合い、単に草刈りや清掃などの管理を行うだけではなく「にぎわい創出のための実験を官民協働で行っていく」ことがテーマとなった。タイトルは「愛される水辺づくりのための協定書」となった。

定例活動は、草刈りとコーヒー休憩できるように、カフェを開くこと。真夏には、基町POPPA通りは、日陰がなく居場所がないので、夜にキャンドルカフェを開いたりした。

また、次々と生えてくるひこばえの中から形のよいものを1本選び、平成19年3月に親ポップラから2メートル



東寄りに次世代を移植し育てることとも、PPCの活動の一環として行った。

「夕風の街桜の国」 市民野外上映会

テーマとなっている愛される水辺づくりについて隆杉さんは「川に目を向けてもらいたい大切な場所と気づいてもらうこと、音楽会や上映会は場の雰囲気にも合ったものを提供すること、これらを継続させること」が大切であると捉えている。

この川辺をロケ地の一つにした映画『夕風の街 桜の国』の野外上映は、まさに「この場所の大切さを実感してもらえ」企画だと考え、劇場の協力を得てロードショー前に野外の上映会を試みた。会場は草を刈り残して円形劇場を作った。一般公募で参加者を募ったが、定員をオーバーして抽選を行った。また、地域の人にも多く参加してもらったことができた。

台風で開催が2日遅れになったが、監督も駆けつけて、印象深い野外映画鑑賞会となった。

夕風コンサート

公共緑地で有料コンサートや飲食販売などの実験を

「質の高い音楽を野外で」という思いから、平成19年9月29日「夕風コンサートVol.1」と題して有料の野外クラシック演奏会を開いた。

一般的に質の高い演奏は、プロの奏者による有料催事である場合が多い。よい演奏会を継続して実施していくためには、やはり鑑賞者から対価をもらう必要があると考えた。

野外の公共空間で有料コンサート

トを行うことは難しいが、PPCの社会実験として許可された。仕切りのない野外空間で有料エリアを設けるために、刈り残した草やバルーン（風船）、キャンドルで会場を囲んだ。

さらに、経費を少しでもまかなうために屋台を出してビール、ワインなどの飲み物、キッシュなどの食べ物も販売も行った。

ギターとバイオリンのアンサンブルで夕暮れから完全に日没するまでの時間帯、ドラマチックに変化する空間の中で音楽を楽しんだ。観客からは、キャンドルの配置やライトアップなどの演出が美しい、あるいは車や自転車通過する音がよいバックグラウンドになったという感想が多く、野外ならではの印象深いコンサートとなった。

天の怒りを感じる

隆杉さんは「台風に見舞われ、天候や季節に大いに影響される自然あふれるフィールドだということに忘れてはいけない。今後も、極端な気象や予測できない事態を天神の怒りと知り、私たち人間も自然の一部と気づくことだ」という。

平成19年は太田川でコノシロの大量死があった。温暖化現象だと大上段に振りかざす必要はなく、日々の生活ぶりを律したり、見直したり、小さなことを実践していきたいと思う。

おわりに命をつなぎ、物語をつむぐ

「今はすっかりきれいになってしまったけれど、かつてはバラックが立ち並んでいたことを忘れてはいけないと思う。戦後を見続けたポップラ

はその象徴。ポップラの物語をつむぎ、そして、基町POPPY通りを大切な場所の一つにしてほしい」という。

平成19年の夏、植え直したポップラは猛暑の影響か、残念ながら、早々と葉を落としてしまった。平成20年春の芽吹きが期待されたが、一枚も葉を付けなかった。世代交代の時期が近づいている。

しかし、周辺には一本のベビーポップラがすくすくと育っている。樹高は7m、ベビーと呼べなくなった。いま、このヤングポップラが命をつなぎ、新たな物語をつむぎ始めた。親ポップラ似の堂々とした姿に成長し、風景をつくっていく過程も、楽しみのひとつだ。

〔追記平成20年11月、ポップラは伐採され、ヤングポップラへと風景は引き継がれた。〕

▼ポップラ・ペアレンツ・クラブ

広島市中区寺町5-15-1102

(松波計画事務所内)

ホームページ <http://www.009.upp.so-net.ne.jp/caq/>

E-mail caq@zd6.so-net.ne.jp

